

2023.8
(公社)富山県薬剤師会
広報誌

とよ や 富 薬

8号

第45巻
No.409



サキシマボタンヅル *Clematis chinensis* Osbeck (キンボウゲ科 *Ranunculaceae*)

生薬 イレイセン(威霊仙) 秋、根を掘り上げ、茎葉、ひげ根を取り除き、陽乾する。

成分 トリテルペン:oleanolic acid、サポニン:clematichimeneside A,B,C、リグナン:anemonin, protoanemonin,clemaphenol等。

効能 主に神経痛のしびれや痛みを治す蛇床子湯、疎経活血湯、二朮湯等の漢方処方に配合される。



生薬 イレイセン(威霊仙)

元富山県薬事研究所
薬用植物指導センター

村上守一氏 写真撮影

〇〇表紙について〇〇



生薬「威霊仙」は『開宝本草』(973-974)に初めて記載された植物で、「商州(峡西省)上洛の山、華山、并に平澤に出る。水聲を聞かぬものがよし。多くの草に先ってはえるもので、茎は四角で数枚の草が相對して生える。冬の月の丙、丁、戊、己の日に根を採って用いる」とあり、比較的新しい薬です。『威霊仙傳』(785-805)に新羅の僧が初めて伝えたことが記されています。陝西省など中国北部に生育し、穂状の花が咲くこと、6-7枚の葉が輪生し、6-7層になるところからゴマノハグサ科のクガイソウ(*Veronicastrum sibiricum*)を充てるようになりましたが、蔓になることや七月の内に六出の花が咲くこと、菊花頭に似たものもあること、根が稠密で鬚が多いことなどからセンニンサウ属、特にカザグルマを充てる説があり、混乱しています。新羅の僧が自ら山に入って採ってきた植物も花冠が大きく、七月の内に六出の花が咲き、色は浅紫色、或は碧白色であるところから同じカザグルマ節(sect. *Viticella*)のテッセン(*C. florida*)ではなかったかと考えられています。両種とも園芸用として多くの品種の母種となっています。しかし、湿地など特殊な環境を好むなど繁殖が難しく、資源が枯渇し、現在ではカザグルマは絶滅危惧種に指定されています。強健で繁殖力が強いセンニンソウ節(sect. *Flammula*)のサキシマボタンヅルに変わりました。

基原植物の混乱は日本でも続いていたようです。『大和本草』(1709)に「鉄線花 其蔓細にして堅し。其葉三葉あり。三、四月花開く。紫、白二種あり。……又カザグマと云う物あり。是亦蔓草なり。鉄線に似て劣れり。同類別種なり。花亦白色、紫色、淡紫あり」とカザグルマ節植物二種をあげています。テッセンは1661-1671年には渡来しています。『花壇地錦抄』(1695)には「風車花形名のごとく色白うす色、うすむらさき、るりあり」とまた「鉄線 風車のるひなり。白紫の二種あり。花落て中の蕊のこり、せんようなり。宛菊のごとく故に菊から草共いうなり」と観賞用植物として植栽されていたにもかかわらず、同時期の『用薬須知』(1726)には「威霊仙 和漢共にあり。漢を上とす。謂う所の鉄脚威霊仙是なり。和の九蓋草是なり。貨る所のもの間仙人草根を用ゆ。甚だ有毒。用いるは不可。王蓋臣が群芳譜を按ずるに和の鉄線蓮と云う。蔓草の根、亦威霊仙の一種なり。若し漢種乏しき時代用」とクガイソウとセンニンソウを同一視しています。『本草綱目啓蒙』(1803)になって「草本、藤本の二種あり。藤本の者は時珍説くところの鉄脚威霊仙なり。和名テッセン、即ち漢名鉄線蓮なり。『秘伝花鏡』(1688)に鉄線蓮一名番蓮、或は云う即ち威霊仙と云り。……又一種カザグルマと呼ぶ者あり。葉大にして橢なり。三葉一朶をなし、大蓼葉に似たり。花は鉄線蓮より大にして紫心なし。碧色白色千瓣単瓣の数種あり。亦鉄線蓮の一種なり。多く人家に栽て花を賞す」と威霊仙はテッセンとカザグルマであるとい、そして「薬舗に唐のカモジデと呼ぶ者、色黒くして長く数百條一窠をなす。これ真の鉄脚威霊仙なり」と述べています。

第十四日本薬局方からセンニンソウ節のサキシマボタンヅルと*C. anshurica* (コマセンニンソウ、東北鉄線蓮)、*C. hexapetala* (ホソバクサボタン、山蓼)の3種が原植物として規定されました。サキシマボタンヅルは中国中南部に広く分布し、沖縄本島や先島諸島にも生育するつる性木本で、高さ3-10mにも這い上がります。根は根茎に塊状に密生し、円柱形で細長く、茎には明らかな条紋があり、ほとんど無毛。葉は対生し、一回羽状複葉で通常小葉は5枚、革質で、狭卵形あるいは三角状卵形で、先端は鈍頭あるいはわずかに尖ります。花期は5-6月で円錐花序を頂生及び腋生し、花は直径約1.5cm、萼片は多くは4枚、瘦果は扁平で細かい短毛が少しあり、花柱は宿存し、長く伸びて白色の羽毛状を呈します。種子成熟期は6-7月です。(村上守一 記)